

講義コード	515102701	
講義名	保育実習I（保育所）	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	後期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日		
代表時限		
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・１～２年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	長澤 順	指定なし
専任教員	設楽 紗英子	指定なし
専任教員	藤村 透子	指定なし
専任教員	穴戸 良子	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

授業の概要
実習の概要 保育所において乳幼児の生活や遊びに参加してその発達的特質を学び、個人差や場面に応じた 具対的な働きかけの方法を体得する。また、保育所の一日の生活の流れ、人的・物的環境、保 育士の職務内容、チームワーク、勤務体制、家庭や地域社会との連携などについて体験を通し 理解を深める。事後は実習で学んだことや反省点をもとに自ら進んで知識の習得に励む努力を する。
授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 保育所や認定こども園において、現場保育者による直接的指導となります。 ②授業形態 学外実習 ③アクティブラーニングの有無 体験学習 ④課題に対するフィードバックの方法 実習日誌を通して、現場保育者及び教員より助言・指導を行います。
保育所実習の内容 １．保育所の役割と機能 （１）保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり （２）保育所保育指針に基づく保育の展開 ２．子どもの理解 （１）子どもの観察とその記録による理解 （２）子どもの発達過程の理解 （３）子どもへの援助や関わり ３．保育内容・保育環境 （１）保育の計画に基づく保育内容

- (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容
- (3) 子どもの生活や遊びと保育環境
- (4) 子どもの健康と安全
- 4. 保育の計画・観察・記録
 - (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
- 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携・協働
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

授業の到達目標及びテーマ

本実習は、保育士資格を取得しようとする学生の必修科目である。
11日間の実習を通して観察、参加（部分）実習を体験し、以下の到達目標を達成することが求められる。

- 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解し、説明できる。
- 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深め、配慮できる。
- 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解し、説明できる。
- 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解し、実践できる。
- 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解し、実践できる。

授業計画表

実務経験の有無

実践的教育から構成されている 例：教育実習・インターンシップ等

ディプロマポリシーとの関連

①幼児教育者観	②知識・技能	③実践力と実務能力	④人間性と協調性
◎	◎	◎	◎

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
実習態度	保育者としての適性を感じられ、現場での実践に必要とされる協調性と協働性を十分に発揮しながら積極的な態度で実習が出来ている	保育者にふさわしい人間性をもち、積極的な態度で実習が出来ている	勤務態度や積極性、協調性、協働性等の保育者に必要とされる資質において、その実習態度から軽度な課題がある	勤務態度や積極性、協調性、協働性等の保育者に必要とされる資質において、その実習態度から明らかに支援を必要とする と判断できる
組織理解	実習施設に関して、事前学習の知識と実習での体験を結び付け、保育者として総合的に理解することが出来ている	実習施設に関する総合的な理解が出来ている	実習施設に関して理解しつつあるが、体験からの考察が不十分である	実習施設に関する理解が不十分であり、支援をしながら十分な理解を目指す必要があると判断できる
利				

用 者 理 解 と か か わ り	事前学習の知識をもとに、積極的な参加を通じてかかわりや記録による豊かな考察により、利用者の実態や課題を考察することが出来ている	参加を通じて、かかわりや記録から利用者の実態や課題を考察することが出来ている	参加を通じて、かかわりや記録から利用者の実態や課題を考察しようとする態度はあるが、不十分である	利用者の実態や課題を考察する上で、支援を必要とする課題があると判断できる
保 育 技 術	実践を行う者として保育内容に関する十分な知識をもち、その上で子どもや施設の実情に応じた計画立案、教材の準備が出来ている	実践を行う者として、保育内容の理解や教材の事前準備、計画立案が出来ている	保育内容の理解、教材の事前準備、計画立案のいずれかにおいて軽度な課題がある	保育内容の理解、教材の事前準備、計画立案のいずれかにおいて明らかに支援を必要とすると判断できる

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験	0%	
小テスト等	0%	
成果発表	0%	
授業への貢献度	20%	事前準備状況、実習巡回時の情報を評価する。
レポート	0%	
その他	80%	実習施設からの評価および実習日誌の内容を評価する。

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
------------------	---------------	-------------------

ICTを活用した双方向型授業の内容

--

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
	実験観察・実習	授業後レポート

参考書

『保育所保育指針〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017） 『保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017）
--

SDGsとの関連
4. 質の高い教育をみんなに
研究室（訪問先等）
実習中は、事前説明会で指示があった方法で連絡を取ってください。
電話番号
028－667-7111（代）